

연세대학교
한국학연구소
IAGS-CKS.U.T

東京大学大学院 総合文化研究科
グローバル地域研究機構 韓国学研究センター

オンライン講演会

近年、崔承喜についての関心が高まっています。1930年代半ば以降、モダン・ダンサーとして活躍した彼女は、日本のみならず全世界で名声を獲得していました。その踊りは朝鮮民族の伝統を取り入れ、植民地支配のもとで苦しんでいた人びとに誇りと希望を与えるものでした。解放後には朝鮮民主主義人民共和国で、朝鮮舞踊の基礎を築き、在外コリアンの文化活動にも大きな影響を与えました。

その活動の軌跡を学ぶべく、以下の講演会を開催します。多くの方のご参加を待ちしています。

演題 「朝鮮の花・崔承喜、日本と朝鮮を生きる—戦前の活動を中心に—」

講師 李賢峻（武蔵野大学人間科学部（教養教育）教授）

【講師 プロフィール】

崔承喜研究者。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士（学術）。小樽商科大学准教授を経て、現在、武蔵野大学人間科学部（教養教育）教授。主な著書に、『「東洋」を踊る崔承喜』（勉誠出版、2019年）ほか多数。



【日時】 2023年5月20日（土）13:30～16:00

Zoomを用いたオンライン講演会です。（要・事前登録）

参加費無料、ただし2023年5月18日（木）までに事前登録が必要です。

下記のウェブフォームまたはメールでの登録をお願いいたします。

開催日までに、事務局よりメールで講座に参加する際に必要なzoom情報をお知らせします。



・ウェブフォームでの事前参加登録は、[こちら](#)→

・お問い合わせ cks@iags-cks.c.u-tokyo.ac.jp（東京大学韓国学研究センター）

主催 東京大学総合文化研究科 グローバル地域研究機構 韓国学研究センター

JFE アジア歴史助成「チマチョゴリをめぐる日韓の歴史—支配から連帯へ—」

協力 崔承喜研究会

【注意点】

・本講演会は、Zoomによるオンライン講演会です。講演会に参加するため、事前にZoomのインストールをお願いします。→Zoomダウンロードセンター (<https://zoom.us/download>)

朝鮮の花・崔承喜、日本と朝鮮を生きる

―戦前の活躍を中心に―

李賢峻（武蔵野大学）



崔承喜（1911～1969）は、戦前の日本で活躍した朝鮮出身の舞踊家である。崔は、秋田県山本郡下岩川村出身で日本のモダン・ダンサー石井漠（1886～1962）の弟子となり、1926年3月に初めて来日した。当時、石井漠は東京の武蔵境に舞踊研究所を構え、後進を育てながら日本全国はもちろん、朝鮮や台湾、そして中国各地で舞踊行脚を行っていた。崔は石井漠の京城公演の際に弟子入りをし、それ以降日本を拠点として、第二次世界大戦中にもかかわらず、世界各地で舞踊活動を行った立志伝中の舞踊家である。

崔承喜の活躍した時代は、不幸にも朝鮮が日本の植民政策の下に置かれ、満州事変、日中戦争、そして太平洋戦争へと突き進んでゆく激動の時代であった。植民地の争奪から始まった世界の覇権争い、日々苛烈さを増してゆく帝国主義の時代に、崔承喜の朝鮮舞踊は燦然と輝いた。当時の切迫した世界の動向を鑑みれば、崔承喜の織りなす華やかな舞踊芸術が、どうして賞賛を浴びたか、あるいは不思議に思われるかもしれない。しかし、そのような時代だからこそ、人々は心の憩う場所を必要とした。

かくも非凡な人生を駆け抜けた崔承喜は、韓国、日本、中国、北朝鮮では、崔承喜をテーマにした舞台、小説、ドキュメンタリー、ドラマ、ミュージカルなど、様々な文化コンテンツが現在に至るまで数多く制作され、近現代における東アジアの文化的、歴史的な関係を比較考察する上で重要な手掛かりとなっている。本講演会では、以上の歴史的な事実を踏まえながら、崔承喜の当時の様々な資料（写真、雑誌、映画、絵画、小説等）を通し、植民地体制下における朝鮮文化のありようを紹介する。さらに当時の資料から浮かびあがる崔承喜をはじめ、兄崔承一、夫安漠の活動に注目し、彼ら朝鮮のプロレタリア文学者らが、朝鮮の近代化への努力を文学に留まらず、新たに舞踊芸術を通して展開する過程や工夫、さらにそこから生じる葛藤等を合わせて見直してみたい。



（事務局より）写真は講師の李賢峻氏からご提供いただきました。

左上は「菩薩舞の顔」、右下は朝鮮の写真家・申樂均(신낙균)が撮影した初期の崔承喜の写真です。